

平成20年度 第1回庄内町行政改革推進委員会 会議録

- 1 開催日時 平成21年2月4日(水) 13時30分～16時10分
  - 2 開催場所 庄内町役場 立川支所 第2会議室
  - 3 出席委員 五十嵐進 川村昭三 佐藤敏雄 志田重一 鈴木富士雄 高橋克弘
  - 4 欠席委員 梅木 均 大瀧嘉瑞 和田明子
  - 5 事務局 情報発信課長 企画係長 永田主事
- 

1 開 会 情報発信課長 (13:30)

2 委員長あいさつ

昨年度に引き続き、今年度についても委員の皆さんの忌憚のないご意見をよろしく願いたい。また、年度末の忙しい中での開催となるので、併せてよろしく願いたい。

3 副委員長の選出

立候補者なしのため、事務局案として【川村昭三委員】を提示し、委員の同意を得たことにより、【川村昭三委員】を副委員長に決定した。

4 報 告

・平成20年度事務事業評価内部評価結果について 【永田主事】

【委員】 今の時期の外部評価実施で、平成21年度予算に反映できるのか。

【係長】 直接の反映はできないが、新年度以降の課題として取り組むよう、各課に対して要請したいと考えている。

【委員】 同様の点については、昨年度も指摘したと思う。今年度もまた遅れているということはどういうことか。

【企画係長】 先ほども申したとおり、予算に対しては反映できないが、当委員会での結果、ご意見について、各課へ周知し、対応するように徹底する。

【委員】 次年度の予算に対応させるためには、前年の11月から12月までに終わらせるべきである。

【企画係長】 現在実施している評価については、前年度実施済み事業に対する事後評価となっているため、どうしても1年間のズレが生じてくる。ただ、現状の事後評価に替え、中間評価を実施することにより、次年度予算への対応が可能となる。来年度はご指摘を受けないように努めたい。

【委員】 前年度決算については、だいたい8月頃に固まると思われる。よって、来年度はもっと早く実施すべきである。

【委員長】 これまでのやり方では無理が出てきているのではないか。

【企画係長】 理想からすれば、実施を半年早められればよいと思われる。

【委員】 問題、課題のある事業の洗い出しを図るためにも、早期の開催を望む。

## 5 協 議

### (1) 平成20年度事務事業評価における外部評価について

【永田主事】 概要説明

~~~~~休憩(14:55~15:05)~~~~~

【委員】 No.501風車村推進事業(ラベンダーまつり)について、予算規模と入場者数はいかほどか。

【企画係長】 平成19年度の実績によると、予算が約200万円、来場者数については約4,500人の来場があったようである。

【委員】 会議開催の日程に限りもあるため、ある程度範囲を絞って評価を実施してはどうか。

【情発課長】 先に会議の開催スケジュールでも話したが、本日と次回で全13事業について評価・意見いただき、3回目でまとめる予定としている。ついては、今回はNo.206~507までの4事業の評価としてはいかがか。

【委員長】 ただいま事務局よりあったとおり、今回はNo.206からNo.507までの4事業を集中的に評価、意見をいただくこことしたい。

### ■No.206 行政改革事業

【委員】 職員各自に目標を持たせ、点数を付けるなどして意識の向上を図るべきである。また、窓口職員についても、正職員ではなく、臨時職員でも良いのではないかとの声も上がっている。こうしたことを実施していけば、コストも低く抑えられると思われる。

【委員】 定員適正化計画により、正職員数は減ずることとなっているが、現在臨時職員などは何人いるものなのか。

【情発課長】 平成20年4月1日現在では、臨時・パート・非常勤嘱託職員については177人が配置されている。

【委員】 現在、町では緊急雇用対策において直接雇用を実施するようであるが、この点と行政改革との整理はどうなっているのか。

【情発課長】 正職員についての現状の町の考え方については、合併当初300人から250人とする考えには変わらない。ただ、250人体制以降については、まだ検討していない状況で、まずは250人体制を目指しているところである。また、緊急雇用対策については、町として雇用先を創出する必要があることから、行政改革とは別枠で数十名を雇用することで進んでいる。

【委員】 確認したいのは、これまでの臨時職員を含めた職員の計画が、今般の緊急雇用対策を実施することにより、相違が生じてくるのではないかということである。その相違についてはどのように見直しを図っていくのか。

【情発課長】 正職員の管理に関しては、定員適正化計画があるものの、臨時等非正規雇用職員については、同様の計画が無いというのが現状である。

【企画係長】 このことについては、庁内の職員で組織する事務機構調査専門部会議においても、正職員が減っていく一方、臨時等職員が増加してはならない点、また、現状の職員の年齢構成の歪みについても解消を図るべきとの意見を職員採用の担当である総務課には伝えているところである。

【情発課長】 実は、平成20年4月1日現在での職員数に関しては、定員適正化計画の目標値である280人に比して3人少ない273人となっている。原因としては、定年以外の退職者

が出てきているため、こういった状況になっている。

- 【委員】 現在177人配置されているといったことだが、行政改革の観点からすれば、臨時職員等も含めての職員計画なのではないか。そういった計画も策定しないで緊急雇用対策を実施するのは、計画性が無いと思われる。また、集中改革プランの進捗状況についても、今年度の状況はどうなっているのか。
- 【永田主事】 集中改革プランの平成20年度進捗状況及び達成状況については、今年度末に各課に対して達成状況の調査を実施するが、税の徴収率などについては出納整理期間の5月末まで正式な数値が出ないといった状況もある。ただ、見込数値についてはお示しできるものとする。
- 【委員】 集中改革プランの進捗状況については、見込数値でも構わないので、早目に示していただきたい。
- 【情発課長】 緊急雇用対策については、今後の国の対策に対応できる仕組みとするよう、検討しているところである。
- 【委員】 先日、私の部落で開催したくるま座トークにおいて町長より、今回の緊急雇用対策については、2年など、ある程度長期的な雇用をするとの話があった。また、臨時等職員の数についても、177人と多いと思うが、保育園や幼稚園など人出が足りない部分への配置と思われる。あと、次回まで臨時等職員の配置が分かる資料の提出をお願いしたい。
- 【委員】 緊急雇用対策の雇用先及び人数についても、次回資料提出していただきたい。
- 【委員】 臨時等職員177人の内には、時間パートの方もいるため、一律に時間数では出せないのではないか。
- 【情発課長】 この177人については、あくまでも人数の実数であるため、時間による配分は出していない。
- 【委員】 行政改革については、住民の興味が非常に高いものである。ただ、重要なのは職員の数ではなく、職員の品質、町民が望んでいるサービスを与えられているかなど、職員のレベルを上げることである。庄内町に関しては、窓口対応などのレベルは他市町村に比べレベルは高いと感じる。よって今後は、いかに町民に対するサービスの向上、メリット向上を求めていくべきである。行政とは、情勢を先取りして、町民が求めるサービスの提供、民間に比べ高い給料をもらっているだけのサービスの提供がなされているかのチェックが必要である。これが本質的な行政改革である。具体的な目標を掲げなければならない。
- 【委員】 今後は各年代の比率に歪みが出ないように採用、配置を実施していくべきである。
- 【企画係長】 その点についても、総務課に話している状況である。ただ、実際に採用試験を実施しても、採用の基準が点数によるものであるため、合格者については必ずしも若い人ではないとのことである。
- 【委員】 それは仕方のないことであり、年齢を定めての採用はやめるべきである。
- 【委員長】 それでは、この事業については、どのように評価するか。
- 【委員】 担当職員の評価にもあるが、職員のレベルアップ、職員意識の向上を図るにも、ある程度の具体的な課題を提示しながら推進すべきである。拡充していくといった方向性は間違っていないと思うが。
- 【委員】 行政については、町民に対してもっと情報を提供してほしい。福祉関係の制度改正などについてはすぐに出すべきである。
- 【委員長】 それでは、この事業における内部評価の妥当性については、方向性は間違っていないものの、具体的な課題の提示、積極的な情報公開の推進を実施したうえで職員のレベルアップを図りながら推進していくべきとの意見を付したいと思う。

## ■No.211 町営バス対策事業

- 【委員】 デマンド交通の実態はどうなっているか。
- 【情発課長】 デマンド交通については、これまで直営で運行してきた三ヶ沢線及び今までバス路線が無かった出川原地区に対して平成20年7月より導入しており、町内のタクシー業者に委託をしている。利用者数については、7月から12月までの集計ではあるが、のべ488人の利用があり、ひと月当たり約80人の利用であった。導入以前と比較して、約30人の増となっている。ただ、利用者のほとんどが70歳以上の高齢者であることから利用料が無料のため、収入は上がっていないが、住民の利便性は向上している。また、現在2路線で、全ての利用が埋まれば全16便となる。
- 【委員】 コストに関して、平成18年度のその他として措置のあった1,000万円は、平成19年度以降どうして無くなったのか。また、平成20年度にある42万円は何を財源としているのか。
- 【情発課長】 平成18年度の1,000万円については、宝くじ助成金を活用した幹線路線のバス購入費用である。また、平成20年度の42万円については、デマンド交通を導入した年度を対象としているため、今年度限りのものである。
- 【委員】 バス業務を全て委託した場合について、他自治体とのコスト比較などはしているのか。
- 【情発課長】 遊佐町においてもデマンド交通を導入しているが、今のところ比較できる数値はない。ただ、デマンド交通については、利用者の利便性は向上するがコストがかかる。また、遊佐町については1回あたりの利用料が500円となっており、無料での実証運行時から比較して利用者は激減しているとのこと。
- 【委員】 私の会社では、スクールバスの運行も含め行政のバス事業を受託している。
- 【企画係長】 以前、庄内交通の路線廃止に伴い、三ヶ沢線を対象に立川交通に委託した経緯もあったが、藤島・鶴岡に直接つながらない路線といったこともあり、利用者数は非常に少なかった。
- 【委員】 デマンド交通の導入により、利用者数が減少したということはないのか。
- 【情発課長】 デマンド交通導入による利用者の増減はない。
- 【委員】 採算性の問題もあると思うが、今後は手法を見直していくべきである。また、イベント時におけるシャトルバス利用など、少し矛先を変えていく必要があるのではないか。
- 【情発課長】 当該事業については、交通弱者の足の確保などが目的のため、イベント時のシャトルバス運行については、観光面での事業となる。
- 【委員】 バスのドライバーについても直営となっているのか。
- 【情発課長】 ドライバーについては、民間委託としている。
- 【委員】 平成20年度におけるコストの見込みはどのようになっているか。
- 【情発課長】 今年度の運行経費については、予算の補正なども実施していないため、シート記載の約2,300万円以内で収まるものと思われる。
- 【委員】 行政評価専門部会議において医療機関からの負担金を求めるべきとの付帯意見があるが実現の可能性は高いのか。それとも、思いつきでの意見なのか。
- 【情発課長】 当該専門部会議における付帯意見については、バス利用者の多くが医療機関への利用であるために出された意見である。
- 【委員】 実現のためには、個々に依頼するのではなく、医師会の庄内町支部を通して要請・協議していくべきである。
- 【委員】 広告料収入はいかほどか。
- 【情発課長】 87,000円である。
- 【委員長】 デマンド交通については、三ヶ沢の方々には大変好評である。本事業については、縮小も廃止もできない事業であるため、評価の方向性については妥当であると思われる。ただし、コスト削減については、今後検討していく必要がある。それでは本日の会議は

ここまでとし、残りについては次回以降としたい。

(2) その他

6 その他

次回については、平成21年2月13日（金）午後1時30分から立川支所大会議室にて開催

7 閉 会

(16:10)